

【生薬名】 杏仁[Ⓜ] *ARMENIACAE SEMEN*

【起源植物】 アンズ *Prunus armeniaceae var. ansu*

【科名】 バラ科 *Rasaceae*



【別名】 ホンアンズ *P. armeniaca* の種子も杏仁の起源植物

【薬用部分】 種子の仁

【主成分】 青酸配糖体アミグダリン(VB₁₇)、脂肪油、フラボノイド、ステロイド類、有機酸、糖質

【薬性】 気味は苦温、帰経は肺大腸に属す、小毒あり

【効能】 ●潤肺止咳、潤腸通便

●咳止め、痰切り、喘息、呼吸困難に

●1日3～6gを分3服用する

●癌の予防には種子を1日10粒ほど食べると良いという

●最近の研究ではアミグダリンはVB₁₇といい、制ガン作用があることが確かめられている

●漢方での効能は胸間にたまった水(水毒という)を去り、喘鳴を治し、咳を止め、浮腫を治すとされています

●疲労回復にはアンズ酒を1回30ml、1日2回服用する

『アンズ酒』：熟す一歩前のアンズ1kg、グラニュー糖100g、ホワイトリカー1.8ℓ、6ヶ月～1年後に濾して熟成させる

【出典】 ●杏仁 温苦、風痰、喘嗽、大腸気閉、便難切に要す(薬性歌)

●主治胸間停水也。故治喘咳。而旁治短气。結胸。心痛。形態浮腫。(薬徴)

【備考】 ●日本ではアンニンと発音するが中国ではキョウニンと発音する

●桃仁と大変よく似ているが桃仁の方が平べったい

●中国では苦味のあるものを杏仁(苦杏仁)と呼び薬用とし、甘みのある方は甜杏仁(甘杏仁)と呼んで食用とする。杏仁豆腐に用いられるのは甜杏仁

【処方例】 ●麻黄湯、麻杏甘石湯、麻杏薏甘湯、潤腸湯、清肺湯、麻子仁丸